

小規模校の児童の他者と関わる力を育てる研究（第二年次）

～小規模校のよさと教育相談の手法を生かした実践を通して～

鮫川村立青生野小学校 福島県教育センター長期研究員 小松 光恵

1 研究の趣旨

平成27年度現在、全国の小学校のおよそ半数が標準学級数を下回る小規模小学校（以下、小規模校）となっている。本県でも小規模校が全体の6割以上を占めており、そのうち1学年1学級以下の学校も4割に達している。これらの小規模校においては、児童同士の関係性が固定化しやすく、社会性やコミュニケーション能力等が育ちにくいといわれている。そのため、国は1学年1学級以下の小規模校には統合を検討するよう示しているが、様々な地域事情により小規模校を存続する場合は、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する方策を計画的に講じる必要があるとも示している。これらのことから、小規模校のよさを生かして、児童が他者とよりよい関係を築いていけるようにするための手だてを講じる必要性がより高まっている。そこで、小規模校の児童の他者と関わる力を育てるために、以下のような仮説を設定し、本主題に迫った。

小規模校において、以下の3つの視点（「2 研究の概要」参照）に基づいた手だてを講じれば、小規模校の児童の他者と関わる力を向上させることができるであろう。

2 研究の概要

- (1) 【視点1】研究協力校の卒業生（中学生）への聴き取り調査
 - ① 小学校卒業後の友達との関係づくりにおける成功体験等についての聴き取り
 - ② 後輩たち（小学生）へ伝えたいことのビデオメッセージの作成
- (2) 【視点2】小規模校のよさと教育相談の手法を生かした授業並びに日常指導
 - ① 「自分の強みを知る」「自分の強みの生かし方を考える」等、児童の思いを生かした課題設定と学びを積み重ねていくことができる単元構想の工夫による道徳の時間の授業
 - ② 授業の学びをつなぎ、学んだことを発揮できる関係づくりのための異年齢交流による日常指導
- (3) 【視点3】他校との交流体験の場の設定
 - ① 研究協力校である鮫川村立青生野小学校と立地環境や学校規模が似ている金山町立横田小学校とのテレビ会議システムを活用した交流の設定
 - ② 研究協力校と同一村内にある鮫川小学校との直接交流の設定

3 成果と今後の課題

- (1) 成果
 - ① 児童の思いを生かしながら、小規模校の「今あるよさ（内的リソースと外的リソース）」を積極的に活用して実践を行ったことは、児童の考え方を広げたり、他者と関わることへの楽しさを実感させたりする上で有益であることがうかがえた。
 - ② 授業や日常指導の中に、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニング等、教育相談の手法を精選して取り入れたことは、児童の自他への新たな気づきをうながしたり、児童同士の関わり合いを深めたりする上で効果的であった。
- (2) 今後の課題

村内の児童生徒の課題を共有する既存の場において、児童生徒相互の人間関係づくりに役立つ予防・開発的な教育相談活動を意図的・計画的に行っていくことについて提案していきたい。